

ヤマシギ *Scolopax rusticola* Linnaeus

【選定理由】

10月初旬頃から越冬のために飛来して、5月中旬頃に繁殖地へ飛去する。山地から丘陵地、平野部の農地や河川敷、沿岸部の干拓地や埋立地まで広く生息するが、生息を継続させるためにはその生態や生息環境を熟知して適当な配慮を継続しなければならない。夜行性であるため生息の確認が困難な種であるが、生息数の少ない種でありながら狩猟鳥獣に指定されている。

【形態】

全長 33～35cm、翼開長 56～60cm。額は灰色で後頭に太い黒褐色の横帯が4本あり、背面は赤褐色に黒色や灰白色の複雑な斑がある。下面は淡灰褐色で黒褐色の横斑がある。尾羽は黒褐色で赤褐色の横斑があり、先端部は灰色。雄は、雌に比べて尾羽が長く嘴が短い。



静岡県, 2018年1月27日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

10月から5月まで、県内の山地から丘陵地、平野部、沿岸部まで広く生息するが、生息密度は低い。

【国内の分布】

北海道から本州中部、伊豆諸島で繁殖し、冬期は、本州、四国、九州、沖縄に生息する。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部、中部で繁殖し、冬期は南下するものがある。

【生息地の環境／生態的特性】

山地から丘陵地、平野部、沿岸部までの開けた場所にある農耕地や緑地で、周辺に繁った林などのある環境を好む。樹木や繁みの多い都市公園や河川敷、工業地帯のグリーンベルトなどにも生息するが生息密度は低い。通常単独でいることが多いが、環境の良い場所では数羽が生息することもある。夕方から夜間に餌場へ飛来し、主にミミズなどの小動物を好んで捕食する。チキッ、チキッ、あるいはブーブー、などと飛びながら鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

山地から丘陵地、平野部が本来の生息地と考えられるが、近年は沿岸部の干拓地や埋立地に作られた新しい環境に生息するものもいる。本来の生息地では開発や道路建設、農業形態の変化等により生息可能な環境が減少している。沿岸部にできている新しい環境は、人手によって攪乱が続いている場所であり、他の用途への転用や、植生が安定して人手による攪乱が減少した場合には、生息が不可能となる不安定な環境でもある。

【保全上の留意点】

生息数が少ないうえに夜行性で、生態の把握が困難な種ではあるが、県内にはかなり詳細な観察がされている地域もある。生息に不可欠な条件等は明らかにされているので、沿岸部に工場等を有する企業等が環境保全を実施する場合には、こうした知見が参考にされるべきである。

【特記事項】

新しく造成された沿岸部の埋立地に緑地を作る場合、植物を移植する前に施肥をしてミミズが多く湧いた場所に飛来する例が多い。こうした環境には本種だけでなく、多くの野生生物が生息することができる。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.138. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)